

# ささお村 通信

## 上笹尾塾の開催

8月3日(金)に上笹尾塾が開催されました。これは、次世代を背負う子供たちに地域の良さを知ってもらい、大人や違う学年との子供たちと交流して学校生活では学べないつながりを経験してもらおうことを目的に2年前にやり今年で2回目です。

今年では、環境教育の講座が少し難しいので4年生以上が参加してくれました。内訳は、4年生12人、5年生3人、6年生5人の20人です。当日熱が出た子どもが2人もいて夏風邪には注意してください。

1時間目は中山澄子先生による書道教室です。今年の課題である4年生「水車」、5年生「美しい心」、6年生「宇宙の旅」みんな真剣に取り組み、すばらしい字が書けました。先生による赤ペンで注意するところをかいてもらい、そこを注意しながら次の書に取り組みでいきました。

◆8月号◆  
平成24年8月1日  
[発行者]  
ささお村づくり協議会  
[制作・編集]  
やまなしの質プロジェクト  
構成団体  
上笹尾共有財産管理組合  
小淵沢紫黒米生産組合  
食生活改善推進員  
やまなしの質プロジェクト



2時間目は永田恵菜先生(山梨大学生)の英語で遊ぼう(山梨大学の産物や風景を題材にした)ながら会話を進めていきましまた。ここへ外人の観光客が来たらどう説明するかという設定の会話は、4年生はあまり発言が少なかつたので、5年生は活発に手を挙げて会話をしました。

午後はいよいよ環境講座です。NPO地球環境融合センターの理事長 青山先生と、自動車用バッテリーの研究開発をしていて会社の青木社長に講演をしていただきました。最先端の航空力学を応用した風力発電でわずかな風でもどこから吹いてもまわるのが特徴で、しかも騒音がないのが東北の被災地でもこの風力発電を作っている。講師の青山先生には、仙台より駆けつけました。ただ、大変感謝申し上げます。講義を聞いた後、風力発電のプラモデルと一緒に作りましまた。細かい作業でしたが、無事作りに成功しました。





先月の28日に、上笹尾公民館で講演をさせて頂きました。多くの方にお集まり頂き、大変ありがとうございました。また、紫黒米カレーを頂きましたが、大変おいしかったです！皆さんもぜひご自宅でお試し下さい。さて、いよいよ夏本番です。この時期全国で大勢の患者が出るのが**熱中症**です。2010年には1700人が熱中症で亡くなっています。

熱中症と一言と言っても色々あるのですが、特に高齢者の方が暑い屋内で水分を取らずなるのは「熱射病」といいます。

人は汗や呼吸で1日に1リットル程度の水分を体の外に出しています。暑い日に冷房もつけずにいると、3リットル程度の水分を失うこともあります。普段は食事や水を飲むことでその水分を補っていますが、夏バテで食事もありとらず、また高齢者では若い人に比べ「喉が渴いた」という自覚がないことが多いのです。そのため知らず知らずのうちに水分を失い、やがて脱水になってしまう、これが熱中症です。

熱中症の症状は脱力、めまい、頭痛、昏睡、錯乱、筋肉の痙攣など多彩です。  
 なかなか熱中症と気づくのは難しいですが、高齢者で暑い場所にいて異常に体温が高く、体が乾燥している時にはまず疑いましょう。こういった場合には、脇の下や足の付け根など、太い血管のある場所を冷たいタオルで冷やすのが効果的です。  
 湿布や熱冷ましシート、解熱剤は効きませんから注意を！  
**予防としては水分をしっかり取ることです。**喉が渴いた時には既にかかなり水分が足りていない状態ですから、「この時間にコップ1杯水を飲む」と、1日2～3回くらい決めておきましょう。  
 東京都立広尾病院医師 良雪 雅 (りょうせつ まさし)



## ミスター戸田のどこでもドア vol. 5

高校生達のチャレンジ！そしてそこから得るものは(続編)

こんにちは！

連載五回目は、前回案内させて頂いたように、山梨県立都留高校(以下都留高校)の取り組みについて紹介します。

6月19日、20日の学園祭にて、大月をイメージした7種類のマカロン。大月の月をイメージしたネックレス。そして大月周辺にて構成する桃太郎をテーマにしたツアーのパネル発表がありました。

マカロンは親御さんに大人気で、高校生が買う間もなく完売をしました。またネックレスも二日間で80%程は売れまして、今は既に完売した状態です。ツーリズムについては、パネルの展示を興味深く見てくださる方が多く、説明をしていた学生たちも嬉しそうでした。

この動きは大月市の活性化の一翼を担うものだと思いますし、それを担う人材育成の意味でも意味深いものだと思いますね。

上記のようなアウトプットも興味深いものでしたが、アウトカム(得るもの)も大変興味深いものでした。

私は、自分たちのアイデアを、誰かと協働することで実現する。そこから得る自信。

これはとても大切なことだと思っています。学校教育の現場だけでは、どうしても、「誰が一番テストで良い点を取るか」。あるいは「運動が出来るか」というような競争が多く、定量的な評価がなされることが多い。その勝負の中で埋もれてしまう子どもたちが多いと思います。

そう言った意味では、こういった社会教育の要素が強い仕組みや仕掛けは興味深いと思います。

皆様も、上笹尾の子ども達と一緒に汗をかきながら対話してみるの面白いかもしれませんね。

褒めてあげるポイントはたくさんあり、それが彼らの自信につながるのですから。

それでは、また来月！(とだたつあき)



## SASAO in the world

～番外編～

今回は8月3日に行われたワークショップのイベントレポートです。《SASAO in the world》が紙面を飛び出し、ささお村の子ども達によって実現しました！小学校4～6年生が英語を用いてささお村の観光案内を致しました。基本的な会話のフレーズや単語を実際に声に出して練習し、観光名所・名物の写真を見ながらそれぞれの特徴をチーム毎に出し合い、最後に参加者が観光案内人と観光役になりきりながら互いに英語でコミュニケーションをとる、という流れでした。(Ex.「釣りがしたいんだけど…」「大滝湧水に行くのがおすすめです！」「そうなの？ありがとう！」)初めは戸惑いがちな印象を受けましたが、後半になるにつれて

だんだん積極的に、「やってるうちに段々楽しくなっちゃった」とコメントする参加者の女の子も。

皆さん地元の観光名所・名物に関しては既にぼっちり。葉の形、山の形から正式名称をびたりと当ててしまう様子には大人たちも思わず感嘆の「え～～！？」。ささお村の子ども達が頼もしく活躍した時間でした。(Keina)

